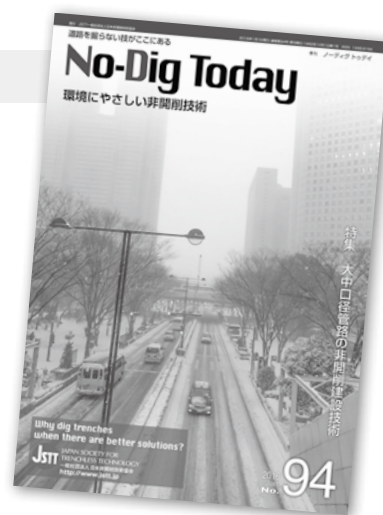




石井 英彦
ISHII Hidehiko
アイレック技建(株)
非開削推進事業本部
営業部

94号では、大口径管推進工法について、超長距離推進工事事例、経済性を考慮した複合式推進工法、急曲線施工事例、地中障害物対応型推進工法等が紹介されており、施工環境が厳しさを増していることがうかがえました。また、国内の大口径管推進工法の発注量はH20年度の119.1kmからH25年度は61.0kmと6年間でほぼ半減しています。このような状況下でも、技術の革新はたえまなく行われていることが感じられました。

一方、ユニコーン工法の紹介では、1983年から累計で300台以上の海外販売実績があり、かつアジアの近隣諸国だけでなく、アメリカ・中東へも販売されていることに衝撃を受けました。

弊社は、小口径管推進工法のエースモール工法と、本号にも紹介していただいた大口径管推進工法のハイブリッドモール工法をラインナップしております。国内市場が縮小していくなかで、海外市場への展開も具体的に考える時期なのではないかと感じました。



袖山 弘
SODEYAMA Hiroshi
(株)三水コンサルタント
東日本事業本部
東日本事業部東京技術第二部

今回の特集にある「長距離・曲線施工、超長距離推進」及び「現場に対応した特殊工法」は、昨今のゲリラ豪雨などに対応した浸水対策の貯留管設計業務等の増大からも、そのニーズが多くなっています。それら設計では、施工ヤードの確保ができない環境・現場条件等、検討内容が複雑になっており、特集で挙げられている施工法は様々な応用性を実現させてくれる技術であることから大変勉強になりました。

設計に携わる技術者として、特集に挙げられた

各技術（工法）の概要は認識しておりましたが、開発された経緯、創意工夫ならびに現場での苦労等興味深い記事であり、今後、一步踏み込んだ設計に活用させていただきます。また、日本の非開削技術が海外で多く採用されていることも知れてグローバルに展開されていることを再認識しました。今後も参考にさせていただきます。



高島 遼史
TAKASHIMA Ryoto
東京電力(株)
東京総支社東京工事センター
都心管路工事グループ

94号の特集テーマは「大口径管路の非開削建設技術」でした。大口径管路とは呼び径800mm以上ということで、電力用管路にも用いられる工法であることから投稿記事を興味深く読ませていただきました。特に長距離推進の施工実績については、設備が長大となるために必要となる精度維持や推進力維持のための取組みが紹介されており、勉強になりました。また、施工時に直面するガスや礫などへの対処方法については、自らが現場で関わる機会は少ないかもしれませんが

が貴重な知識を得ることができました。

読み進めていくと、特別講演での脳内物質についての講演内容や土木に関連する歴史の勉強もできる内容があるなど、魅力がちりばめられた誌面に楽しませていただきました。

入社後まだまだ経験が少ないこともあり、今後も本誌を通じて非開削技術についてさらに勉強させていただきたいと思います。